

啓伸塾便り

5月(皐月)
May

ひとりひとりを大切に
啓伸塾
ただ今、五月入塾生受付中

「勉強できない子」のために！

参考文献 石田勝紀
同じ勉強をしてもなぜ差がつくのか
△「負けない子」を育てる
東大読書 新井紀子
西岡吉誠

先月の「啓伸塾便り」にて、「同じ勉強をしてもできる子とそうでない子の違い」を載せました。勉強できない子は何を持ってしているのか、それは「考える力」です。では「考える」とはどのようなことか、それについてこれからお話しします。

「思ひ」と「考える」の違い！

たとえば、「今日は疲れた」「思ひ」。疲れた」と考えるとは言いません。つまり「思ひ」とは、感じることと同じで、ありのままを受け入れることです。「今日は疲れた」としてしまおう。部活が大変だった。先生に叱られた。だから疲れた。」と考える。これが、「考える」として、

つまり「考える」とは、「なぜだろ」「思ひ」のことです。わからないことを「わからないなあ」と思ひのまなへ、わからないことをなせだろ。わからないことを知りたいと思ひ、その答えを探す。これが「考える」ということです。

「考える」ことのできる人「考える力」がある人は、意味が理解できる子です。意味が理解できない子は「考える力」がありません。

意味が理解できる子は、文章の意味を理解しながら読むということが出来ます。それに対し意味が理解できない子は、字づらを目で追っただけです。

たとえば、「ケンはいつも学校に遅刻して来るから嫌いだ。」と誰かが言ったとすると、字づらだけを追っている子は、「そうなんだ」と思うだけです。が、「考える力」がある子は、「遅刻が/らいいで、なぜ嫌いになるんだろ。僕は/らいと思わな/らい」と考えます。

やる気がわかないのですが・・・机に向かうとやる気がわいてくる。

なかなかやる気が起こらない人は、とにかく机に向かって3分座ることで。やる気が起こってから机に向かうではありません。逆です。やる気が起こらなくても、とりあえず毎日机に向かうのです。

1時間も座らなくていいです。3分座るだけで、机に向かう習慣がつかます。

試験に通る人は、とにかく机に向かっています。勉強する、しないは別として、とにかく机に向かうだけでいいのです。

机に向かっていると、不思議と勉強する気がわいてきます。条件反射です。トイレに行って便座に座ると同じです。試験に通らない人は、やる気がわいてから机に向かおうとします。机は、3分向かっていると、なんだか勉強する気がわいてくる不思議な装置です。とにかく机に向かう習慣を、自分でつけていけばいいのです。

勉強しなくてもいいのです。とりあえず座っているだけでいいです。勉強は、①なかなか気持ちが集中できない。②やる気がわかない。という2つのことと闘わなくてはなりません。でも、闘わなくていいのです。自動的に机に向かうだけでいいのです。

とにかく机に向かって3分座る！

高校受験すぐにできる40のこと 中谷 彰宏 著より

雲ひとつない夜空、翌日は「寒暖差」にご注意！

春は寒暖差が激しい季節です。日中の気温に比べて朝晩の冷え込みが激しく、お布団からでられない、なんてこともあるでしょう。

この朝晩の冷え込みは、夜に晴れていると、湿度が少なく雲もないため、日中にためた地上の熱が上空に逃げてしまい、朝にはすっかり冷え込んでいるわけです。綺麗な星空が見えたら、次の朝は寒いと覚悟しておいた方がいいです。理科で「天気」を学習した中2のみなさんならよく知っている「天気」のメカニズムですね。

もちろん春なので、日中は暖かいこともあり、上着を脱ぐような時間帯もあるでしょう。私たちの体は暑い時は体内の熱を逃がすように、寒い時は保温するように自律神経によって調整されています。ところが1日の寒暖差が大きいと、どちらの気温にあわせていいか混乱してしまい、自立神経の働きが乱れてしまう場合があります。それが、季節の変わり目に頭痛やめまいなどの不調を引き起こす「気象病」にもつながってしまいます。

春はいつも以上に体調管理に注意して、自立神経が乱れないようにしなくてはなりません。特にいつまで続くかわからないコロナ禍においてはなおさらです。かたおか天気予報士の毎朝10秒！楽しく「お天気ストレッチ」より

5月の予定

中3生 実力テスト(学校)
新年度初めてのテストで、例年平均点が300点を大きく下回る難しいテストです。塾生のみなさんは、4月中にはテスト対策を行い、連休中はテストの予想問題のプリントを課題としてお渡ししました。準備は万全と思っています。

中3・小6 学力状況テスト(学校)

意味が理解できない子は、意味を理解しないで覚えます。小学校の簡単な問題なら、それでも覚えることで、意味を理解できる子と同じようにテストでは高得点が取れます。

しかし、意味が理解できない子は、ただ覚える作業をして、テスト点数を取っただけですから、勉強が楽しいと思えないでしょう。

意味が理解できない子は、小学校高学年、中学と難しくなる勉強には対応できなくなります。また、ネットに流通する情報に振り回されたり、判断を人にゆだねてしまったりすることで、自分を見失ってしまい、社会人になっても、仕事のできる人にならないでしょう。

では、意味が理解できる子になるためには何をすればいいか。それは、「考える力」を身につけることです。「この考える力」とは、2020年から始まった新しい学習指導要領にある「思考力」にあたります。

考える力を身につける最初のステップとして「疑問を持たせる」というものがあります。それは、たとえば「なぜだろ」「どうしてそうなのかっていんだろ」という原因を分析することです。

「あなたの家の住所はどこですか?」と問われると、覚えていけば、住所を答えられます。それは「知識」として自分の住所を覚えているだけです。それに対し、「なぜ、その家に住もうと思ったのですか?」と問われたら、「え、なぜだろ?」と考えなくてはなりません。このような機会を作ることによって「考える力」が身につけてきます。

塾の授業で、こんなことがありました。ある子が「わからない。」と言ってきたので、「何がわからないの?」「聞く」と聞くと「全部!」と言います。今度は「一番最初にわからないところは、何?」「聞く」と聞くと何も答えられませんが、わからないことばかりでしたが、自分が「何がわからないか」を考えていないのです。

次号では、「意味が理解できる子」つまり、「勉強ができる子」になるために何をすればいいかについて話を進めていきたいと思います。